

新潟県

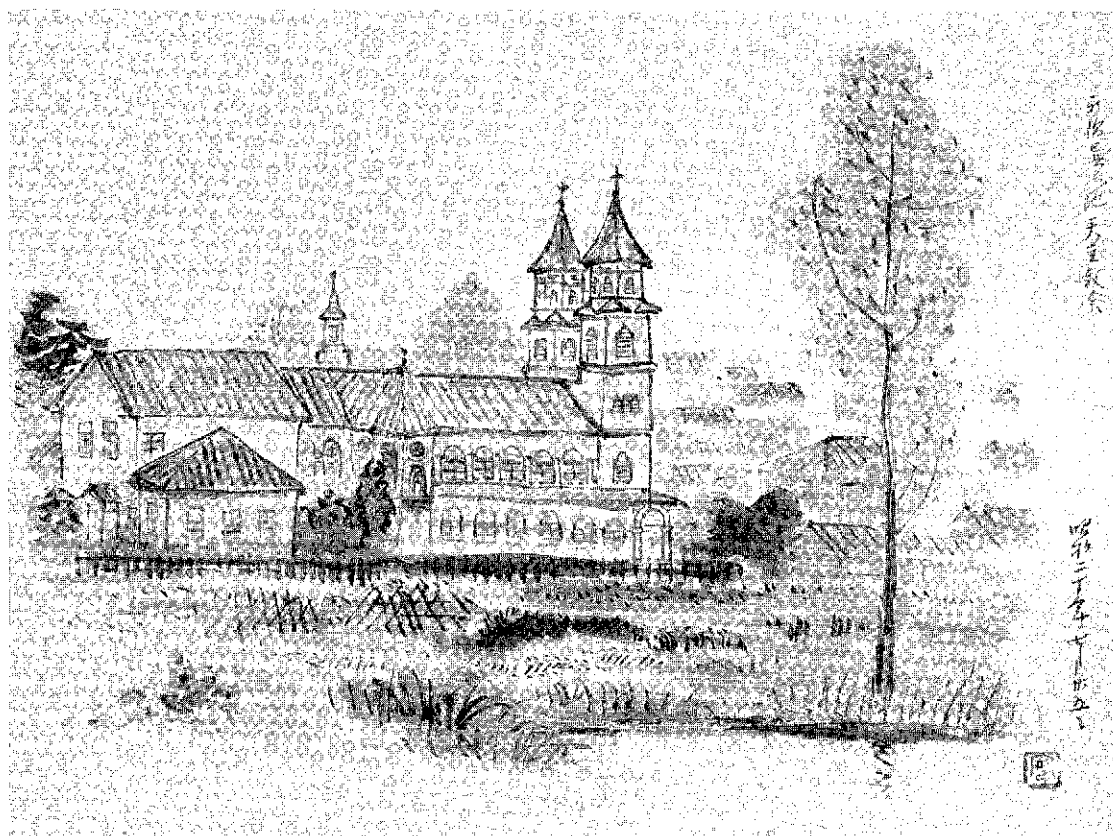
63年

公民館月報

4月
第422号

特集 いま、岩室村公民館では!!

——生涯学習を進める村づくり探訪 その2——



安宅 安五郎

「越後六拾景図の内

新潟異人池天守教会」

1945年 33×43cm 水彩

戦災に遭い、ようやく逃れてきた故郷新潟は昔のままであった。傷心を慰めてくれる風景を、安五郎はひたすら描き続けた。描くことが自分にとって本当の戦であると思いながら。

第四回理事会開催

研修の充実を目玉に

新年度事業の計画を立案

去る二月二十六日、新潟市中央公民館を会場に、第四回理事会が開催された。

全理事出席のもと、年度内事業の反省ならびに新年度の重点目標、事業計画などが

審議された。

新年度の重点目標は、前年度と同様で、①研修の充実、②情報提供の拡充の二つに焦点を絞り重点的な事業を進める計画。

なお、事業計画の主なもの、次のとおりとしたい考えである。

1、第39回県公民館大会は、二月二十日(内、糸魚川市・西頸城郡公連の主管で実施される。

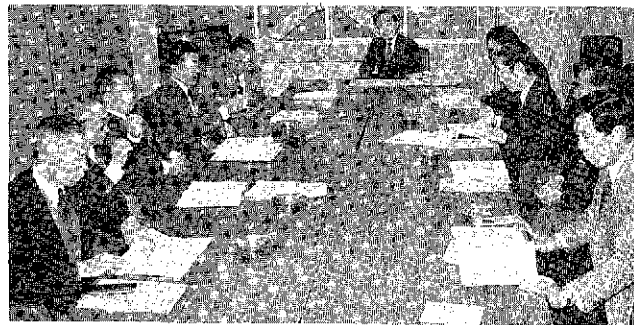
「生涯学習社会における公民館の役割」を主題として、実践発表を中心とした研修会にする予定。(詳細は次頁)

2、公民館職員研修は二年目。比較的勤務年数の浅い職員を対象として、公民館の実務を中心とした研修を実施する予定。

二、情報提供の拡充

1、本紙の紙面のより一層の充実を図る。本年はたまたま編集専門委員の改選の年のため、新委員の活躍によらねばならない。また、県内各地の情報を収集するための方法も工夫する必要がある。

2、「新潟県の公民館」という情報資料誌の作成を計画する。これは、県内の全公民館(中央館・地区館)の主な事業を掲載し、公民館活性化のための資料とすることをねらったもの。今年度の新規事業としてすすめたい、というものである。



力強く進め公民館連合会

本会の活性化のために大きく貢献された会長志水亘氏は、四月一日付けで新潟市教育委員会に新設された文化行政課の課長に栄転され、本会を去ることにした。



志水 亘 氏

二年間でありましたが会長の重責を思い、心を引き締め緊張して役職に当たりました。

幸いにして、よき仲間・役員の皆様、事務局長の上村氏と佐藤さん一に恵まれて無事にその任を果たすことが出来ましたことを感謝しております。

かつて公民館関係者の間で、

意欲が高まる、その結果として公民館が持っていた機能が一枚ずつ剥がされる。

例えば、読書活動が活発になれば本も職員も充実した図書館

「公民館ラッキョ皮むき論」なる論議が交わされたことがあった。それは、公民館活動をすすめていけばいくほど住民の学習が求められる。同じように、音楽や美術のグループ育成がすすみ活動が盛んになれば、音響効果のよいホール、展示設備の整った専門施設を住民が要望してくる。

公民館活動の伸展があつてこそ、整備された専門施設が産まれていく。生涯学習の強調されるいまの時代にこそ、社会教育の根っ子である公民館が、いつまでも松明をかざしてすすんでいってほしい。

県公民館連合会はかがり火の一本一本を結び合わせて力強く進んでいってほしい。ますますの発展を期待いたします。

公民館関係法令・解説

新任の公民館職員のみなさんにおすすめする必携の一冊!

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。
A 5判34ページ 1部 300円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 025(224)6073

第二回郡市公民館連絡協議会

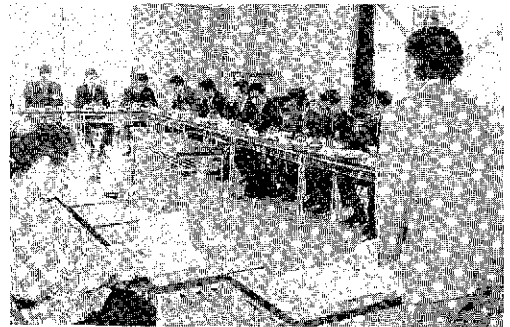
事務局 長 会議 開催

去る三月四日(金)、新潟市中央公民館において、第二回郡市公民館連絡協議会事務局長会議が開催された。

このうち、新規計画中の「新潟県の公民館」(仮題)に関する内容検討では、多数の建設的な意見が出された。

参加者は21名。会長のあいさつに続いて会議に入る。主な内容は、本会の新規計画の事業と、本事務局長会議のもち方についての意見、要望、各郡市間の情報交換であった。

また、本事務局長会議のもち方については、内容、回数ともに従前どおりとし、会場を上中下越の適地に移してはどうかとの意見が出て、今後検討することになった。



辛 口

「公民館運営審議委員は館長の諮問に応じ、公民館種々の事業の企画、実施につき調査審議するものとする。」

(社会教育法第二十九条の二)

人づくり、地域づく



「公民館」としての生涯学習が強く叫ばれるようになってきている現在、公民館活動もますます多様化し高度化していることが予想され、運営も厳しくなっていくであろう。いろいろな

自分の立場を考える

星 名 武 男

教育施設、文化施設をいかしてお互い発展させていくか、その活動を全体としてどうとりしめるかが益々公民館の大切な使命となっていくのではないかと感

じている。

次には、生涯学習としての公民館を考えるとき、大切なことの一つは、もう一度地域を見つめ直し、各地域の実態と課題の中から事業を組み立てる努力を

待てるように思う。三番目に、十日町市公民館は過去において三度文部大臣表彰を受けた実績をもち、その運営審議委員を命ぜられてから日浅く、ただ責任の重さだけがのしかかり、公民館事業にどうかかわっていかばよいのか戸惑っている。館長の諮問機関ではあるが、実質的には館運営の核となるよう、まず、自ら勉強しなければと思う。

よりよい町づくり、地域づくりをめざしてこ

第39回 新潟県公民館大会
第31回 上越地区公民館大会

開催要項 (案)

1、趣 旨

“生涯学習を進める社会づくり”は、今や国民的課題といえよう。この課題解決のために、公民館が果たさなければならない役割もまた極めて大きい。

このときあたり、公民館関係者がこれまで主張してきた「公民館は生涯教育の中心施設とか中核センター」としての役割についての認識をより一層確かなものにし、ますますその機能の発揮に努めなければならない。

そこで、県内各地の公民館の実践を持ちより、より具体的な研究討議を深め、課題に答える公民館のありかたを探る。

- 2、主 催 新潟県公民館連合会
上越地区公民館連絡協議会
- 3、共 催 新潟県公民館振興市町村長連盟
新潟県教育委員会
- 4、主 管 糸魚川市西頸城郡公民館連絡協議会
- 5、後 援 略
- 6、期 日 昭和63年10月20日(木)
- 7、会 場 糸魚川市 市民会館ホール

- 8、参加者 略 (600人)
- 9、大会主題 生涯学習社会における公民館の役割
- 10、日 程

| | | | | | | | |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 9:30 | 10:30 | 11:10 | 12:10 | 12:50 | 13:30 | 15:00 | 15:30 |
| 受 | 開会式 | 実 践 発 表 | 星 発表 | 発表 | 講 義 | 閉 | 会 式 |
| 付 | 表彰式 | ① | ② | 食 ③ | | | |

- 11、実践発表 上、中、下越地区から各1名 ①②③
- 12、講 義 講義題 「地域づくりと生涯学習」
講 師 静岡県コミュニティづくり推進協議会理事
東海大学講師
西ヶ谷 悟 殿
- 13、参加費 1700円 (昼食費を含む)



公民館では!!

らづくり探訪その2

学習プログラムの開発

生涯学習を進めるむらづくりでの中心的な仕事は、学習プログラムの開発にある。

地域に根ざした学習プログラムが必要とされ、それだけに、独自性・創造性の要求される作業である。その委員長に、前新潟市生涯教育研究室長片野二郎氏を、他に、教育関係者三名、農改普及所・保健所・福祉関係から各一名の計七名の委員を委嘱。英知を結集して、プログラム開発の作業が進められた。

当初は年度内五回の委員会では結論を出す予定だったが、十回を越える会議が必要であったという。学習プログラムとは何か、発達課題とは、地域課題とは、学習課題とは、と熟語・用語の共通理解に予想以上の時間を費やしたり、委員個々の持つ生活課題や地域課題への認識の

ア、地域に即したもので、村民が親しみをもち、やる気を持つものを。

イ、岩室村の独自性を生かしたものであること。

ウ、村の目標や、村づくりの目標に添い、村を活性化することに役立つものであること。エ、エ、できるだけ多くの人に参加してもらい、村を「学習社会」として形成するのに役立つものであること。

オ、開発に当たっては、できるだけ正しい手順にそって進めたい。(手軽に、他のプログラムを模倣することなどによらず、皆

相違の調整など、困難な作業の連続であったという。

次に、プログラム開発委員会の作業経過を「経過報告」の中から要点を抜粋して紹介する。

1、プログラム開発の基本方向

2、開発の手順

ア、教育目標の検討と設定

村の目標、村づくりの目標と関連させて教育目標を設定したい、必要課題の検討と設定

本物の岩室村の学習課題をとらえるため、発達課題・生活課題・地域課題に関する委員相互の共通理解を深めて作業を進めた。(表1)

ウ、年間の生涯学習事業

一 一覧表の検討とまとめ

行政・団体・民間・学校で行っている生涯学習の関係事業を洗い出して、村の「学習課題」に関連させて配列した。

ア、地域に即したもので、村民が親しみをもち、やる気を持つものを。

イ、岩室村の独自性を生かしたものであること。

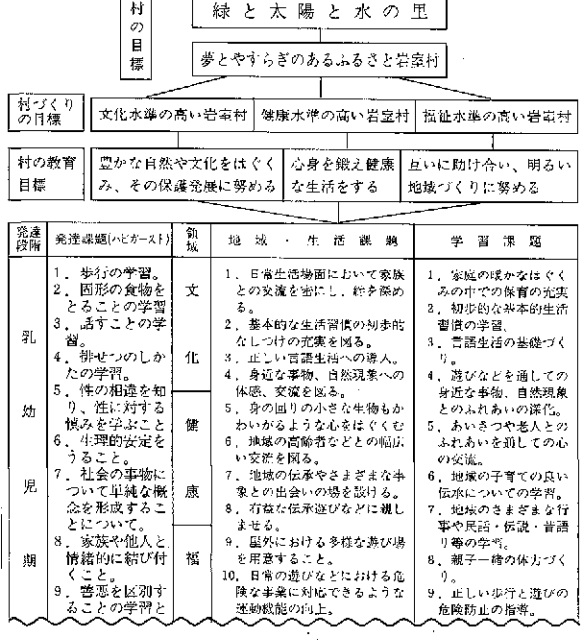
ウ、村の目標や、村づくりの目標に添い、村を活性化することに役立つものであること。エ、エ、できるだけ多くの人に参加してもらい、村を「学習社会」として形成するのに役立つものであること。

オ、開発に当たっては、できるだけ正しい手順にそって進めたい。(手軽に、他のプログラムを模倣することなどによらず、皆

(表2) 生涯学習事業一覧表

| 乳幼児期(0-5) | 児童期(6-11) | 青年期(12-25) | 壮年期(26-40) | 更年期(41-60) | 高齢期(61-) |
|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------|----------------------|----------|
| 2. 初歩的な基本的生活習慣の育成 | 1. 基礎的学習力、体力及び自から学ぶ力の育成 | 1. 社会人として基礎的な知識、勤労観、職業観の育成 | 1. 広い視野に立つつ自己の職業に関する研習 | 3. 職業生活の本質による生きがいの実現 | |
| 乳幼児家庭教育学校(公) | ・子ども会活動(公) | 職業後進者クラブ(農改) | 創作大賞取組委員会(農改) | 生きがい運動(公) | |
| 幼児家庭教育学校(公) | ・学校教育(学校) | 職業青年訓練所(農改) | 若菜畑大(農改) | 考後の生活と年金講座(公) | |
| 児童家庭教育学校(公) | ・手作り道具の作り方講座(公) | 農産物加工講習会(農改) | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| | | 2. 自己理解に基づき通商活動 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| 3. 言葉や音の基礎づくり | 2. 身の回りの事象、自然や社会的な現象などとの交流 | 3. 青年期の結集による村づくり学習の推進 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| 4. 遊びなどを通じての身近な事象・自然現象とのふれあいの強化 | ・自然観察(公) | 4. 地域づくりにへの参加 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| 5. 遊びなどを通じての身近な事象・自然現象とのふれあいの強化 | ・学校教育(公) | 1. 地域づくりにへの参加 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| 6. 遊びなどを通じての身近な事象・自然現象とのふれあいの強化 | ・学校教育(公) | 2. 地域づくりにへの参加 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |
| 7. 地域のさまざまな市民団体活動等の学習 | 3. 地域のさまざまな市民団体活動等の学習 | 1. 地域づくりにへの参加 | 職業大(農改) | 職業大(農改) | |

(表1)



岩室村公民館 (実行委)

〒950-0001 新潟県岩室町岩室

電話 025-873-1111

生涯学習事業 一覧表

生涯学習事業 一覧表



学習プログラム

開発の苦心を語る

プログラム開発委員長 片野 二郎氏



まず、用語の共通理解が大変でした。「教育目標」など教育関係者にはすんなりと分かる用語が、他の委員諸氏には分からない。
 反対に、農業技術や保健の専門用語は教育関係者には分からないのです。
 ついで、発達課題や生活課題などの共通理解にも時間がかかりました。
 それでも、学習課題を導き出すまでは、順序を踏んで、理屈で考えることができましたが、

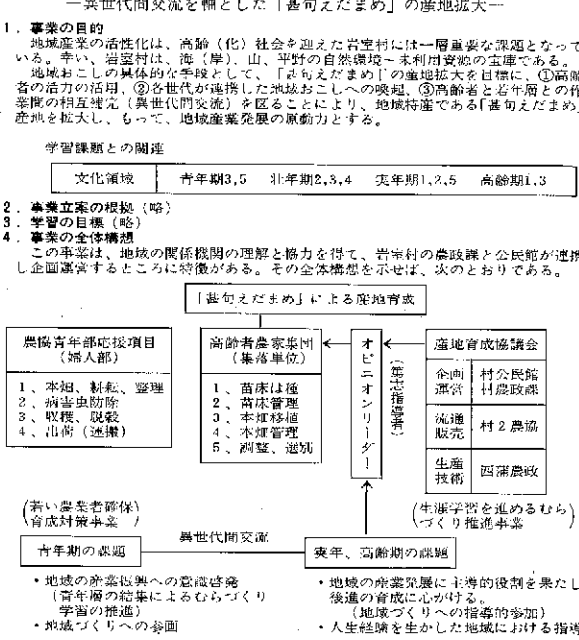
それが一つのプログラムにするとなると、経験がものをいいます。実際仕事をすする方々の生涯学習の感じかたが違うのです。だから、そうした方々と教育専門家とがしっかりと手をつながないと、真に役立つプログラムにはならないことが分りました。このプログラムも決して万全ではありません。実践の過程で手を加えつつよりいいものにしていってほしいものです。

が、個人志向にかたよる傾向が見られるので、村に対しての認識を深め、「ふるさと石室村」の意識を高め、村の活性化に資するものをねらった。
 ② 事業名 「甚句えだまめ」
 詳細は表3を参照
 ③ 事業名 「生涯スポーツ講座」
 親子のふれあい、
 交流を目指して—
 親子スポーツを進めることは健康、体力づくりだけでなく、親子関係づくりや、地域理解にも役立たせる必要がある。そこで、地域に即したユニークな親

探訪を終えて

岩室村の「生涯学習を進めるむらづくり」の第一年度の仕事をみた。率直にいうと市町村が単独でやるにはこれは大変な仕事だと思った。他の市町村がへき易しなればいいがといらざる心配が襲ってくる。
 その①は、教育委員会を越えて一般部局を取り込んだ事業のプロモーターの社会教育(公民館)関係者の苦勞。②は、プログラム開発委員諸氏の共通理解を得ることの想像以上の苦勞。
 ③また、委員諸氏の創造性を生かすために、基礎資料(村全体の地理的・経済的・文化的学習資料や住民の意識や実態に関する資料など)の整備充実を期さねばならないことである。
 いよいよ、63年度は「学習社会づくり」に取り組む年である。公民館の館長・職員はもとより、運営審議委員諸氏の出席でもある。研究成果の高からんことを衷心から祈る。
 プログラム開発委員長の片野氏が、「とにかく、実践すること。考えてばかりいても、学習論はきりがなし」と語った言葉が大きな意味をもって響いてきた。

(表 3) むらおこしふるさと講座
 —異世代間交流を軸とした「甚句えだまめ」の産地拡大—



5. 学習計画

| 学習主題 | むら | 学習内容 | 方法 | 時間 | 会場・協力・担当 |
|---------------------------|---------------------------------|--|------------|----|---|
| 1 関係式全体構想と具体的な運営について | ・事業の全体構想とそのおらいいについて共通理解を図る。 | オリエンテーション ・産地づくりの活動と高齢者の役割 ・異世代間交流の意義 ・高齢化社会と農業 | 話し合い 演習 | 2 | 公民館、老人クラブ、岩室、札幌農協、西蒲原農協、西蒲原農協、村高政、村高政、村高政 |
| 2 村の特産物としての「甚句えだまめ」の開発と拡大 | 「甚句えだまめ」を村の特産物として産地拡大を図ることを考える。 | 「甚句えだまめ」の開発と拡大 「甚句えだまめ」の品種と利用法 | 話し合い 演習 | 3 | 西蒲原農協改良普及所 |
| 3 えだまめの産地拡大 | 「えだまめ」栽培のしかたを学ぶ。 | ・直まき栽培法 | 演習 | 3 | 西蒲原農協改良普及所 農協青年部 |
| 4 えだまめの栽培管理 | 「えだまめ」栽培のしかたを学ぶ。 | ・移植栽培法 | 講義 演習 | 3 | 同上 |
| 5 肥料の施し方とポイント | 肥料の施し方とポイントを理解する。 | ・肥料の施し方 ・ポイント | 講義 演習 | 3 | 西蒲原農協改良普及所 |
| 6 栽培管理の組作業のチームワーク | 組作業の進め方を知る。 | 組作業と管理の要領 | 話し合い 演習 | 2 | 同上 |
| 7 収穫、販売、出荷 | 収穫、販売、出荷の進め方を知る。 | ・収穫、販売 ・出荷の進め方 | 講義 | 2 | 同上 農協青年部 |
| 8 出荷の進め方 | 出荷の進め方を知る。 | ・出荷の進め方 | 見学 | 3 | 岩室、札幌農協 農協青年部 |
| 9 選果の方法 | 選果の方法を知る。 | ・選果と選別の方法 | 実習 | 2 | 西蒲原農協改良普及所 岩室、札幌農協 |
| 10 えだまめ作り | えだまめの栽培方法を知る。 | えだまめ栽培 えだまめ栽培コンクール | 実習 演習 | 2 | 老人クラブ 農協青年部 西蒲原農協改良普及所 |
| 11 収穫のよこぎ多味 | 収穫のよこぎ多味を知る。 | ・収穫のよこぎ多味 ・各農家の ・次年度への備忘 | 話し合い | 2 | 西蒲原農協改良普及所 岩室、札幌農協 農協青年部、老人クラブ、婦人部 |

中越地区公民館長・主事研修会

「生涯学習」にどう取り組むか

六分散会で白熱した意見交換

二月二十四日(休)、長岡市中央公民館を会場に、中越地区公民館長、主事研修会が開催された。

研修の主題を「公民館職員として、生涯学習にどう取り組むか」におき、終始熱心な研究協議がなされた。

午前、開会式に続いて、基調講義があった。講師は柏崎市の徳岡助夫氏で往年の木県公民館界の指導的役割を担った人。

「生涯学習時代の公民館」と題した講義で、徳岡氏の三十年にわたる実践を基盤とした公民館論が述べられた。卑近な事例を取り上げての具体的な内容は極めて説得力を持っていた。また、最後に述べられた、「自ら燃えずして他を燃やすことはできない」という氏の職員観・人生観は参会者に多大の感銘を与えていた。

変えることはできない(予算がつかない)がどうしたらいいのか……?という困惑型

○生涯学習への取り組みとは、今やっている事業が、生涯学習体系のどこに位置づけられたのかを弁えてさえおればいいのではないか……という精神主義型

○非常勤館長は「あいさつ要員」の域を一步も出ないので……、という諦観型。など、多様な見解が出されていた。

主事部会では

生涯学習体系のうち、青年対象事業の困難性に最も関心が集まっていたように思われる。

○青年はイベントには興味を示す。しかし、唱ったり踊ったりという遊びの要素がないと敬遠する。遊びのイベントから一歩深く学習の要素を加えたいのだが……?。これに対し、勤労青年ホームとの共同事業での成功例や、地域づくりの土役を若者に任せた成功例などが話し合われていた。

館長部会では

○住民を、単に参加させるというだけでは不十分。地域の活性化を図る事業、つまり、マチぐるみで地域づくりを進める方途を考えるべき……という積極論。

今やっている事業を簡単に

○一方では、「話し合い学習と



満員の全体会場

は?」「事業の評価にあたって、自己満足だけなのではなからるか?」という初任者の不安も吐露されていた。

× × × × × × × × × ×

以上、六分散会を短時間づつつまみ食いのように廻って見たときの話しあいである。こうした意見交換の中に、「本日の講師は三〇年にわたる公民館勤続と聞くが、どうしてそんなことができたのだろうか、信じられない。」と真剣なまなざしで質問していた若い職員が忘れられない。まさに今昔の感にたえなかった。

(一村記)

地域住民への思いやりと

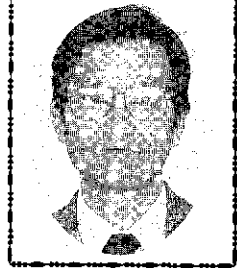
あたたかいコミュニケーション

公民館 総合補償制度 加入受付中
自治館

取扱店 安田火災海上保険 新潟支店 TEL.(025)225-1812

公運審の 活性化を望む

桜井兵治



前月号で田村達夫氏が問題提起した「公民館運営審議会」のあり方に、さっそく共感の論文が届いた。

浦島太郎は考えた

十口町市の田村達夫氏の「運営審議会の充実を」という意見を三月号で拝見した。公民館概覧の数字を取り上げ、公民館運営審議会委員の減少、あるいは会議回数(の三九%減少)のことを知った。私たちの現場でも減少していることからすれば、さもありなんと思ふ。

私は昨年春に、公民館の現場に七年ぶりに戻ってみて、町の社会教育の方向もずい分変わってしまった。今浦島の感を深くしている。この変化は単にわが町のみのことではなく、全般に言えることである。

どのように変わったかと言えは、教育的というよりは、行政的に、人間中心から事務管理中心へと変化している。これも周知の事実であって、行政改革の予期せ

ぬ落ち穴であったのであろう。公民館運営審議会の役割りや、立場は著しく低下してしまつた。その現状はどうも認めざるを得ないのだが、このまゝ手をこまねいて見ているに忍びない。

公民館理念の創造を

現実に社会教育を実践している最大の教育機関は公民館であり、生涯学習活動推進の中心的役割りを果たしてきたのは、公民館関係者であった。

今後とも生涯学習活動の中核的役割りを果たすのは、公民館であって、この生き／＼した活動こそ二十一世紀への展望を開くものであろう。

教育機関としての公民館を蘇生させる方途は何かと言えは、新しい時代に即応した理念の創造が第一であると思う。残念ながら「社会教育」も「公民館」もそのスタイルやイメージが固定され、言葉として古く感じられることは否めない。これは状態から生じたものであるから、

公民館の場合、内容を新しいものにする事によって対応できるだろう。

理念の問題からすれば、公民館の果たすべき役割りや、機構と機能を強力日つ、高度のものへ向かわせる必要がある。公民館のアクセントは多分、多様化に対応できないことではないか。

公民館主事が専門化されていないことも、教育機関としては致命傷である。

公民館の抱えている課題は多かれども、時代に即応した公民館の理念をつくる上で、最も近い立場にあるのが公民館運営審議会である。

発足当時の公民館の輝かしい歴史に学び、その意気を継承して、公民館の将来展望を切り開いてゆきたいものだ。

その第一歩は、田村氏の提案した「会議回数を一回増やして「地域にとって公民館とは何か」とことん話し合つて」いきたいものである。

(川口町公民館主事)

岩室村公民館社教主事

石添 義克氏(43歳)

本紙に紹介した岩室村の「生涯学習を進める村づくり」の裏方として活躍中の人物。

前に8年間公民館に勤務し、その後6年間総務課で過ごす。

昭和57年に再度公民館勤務となつてすでに6年になる。通算14年のキャリアを持つベテラン。一國の研究委託の事業、大変で



「確かに、大変な仕事です。でも私にとつては、村に對

して恩返しのもりなんです。」

「というところ……?」

「57年に、村の好意で、海外派遣研修に参加させてもらいました。そのお礼の気持ちと、その時、西ドイツの成人教育の充実ぶりを学び、びっくりしました。そして、村へのお返しはこれだ!と思つたのです。」

「つまり、それが生涯学習の推進体制というわけですね。」

「そのとおりです。」
と、生涯学習へのなみなみならぬ思い入れの様子。今年度の事業の成功を祈るや切。

(上村記)

素顔 拝見

新井市公民館南支館主事補

高橋 正一氏(22歳)

高卒以来の公民館勤務。四年が終ろうとしている新進気鋭である。中央公民館で二年間、館長以下先輩職員から、公民館事業の基礎をみっちりとしこまれただけあって考え方が明快である。南支館に配置換えとなつて二年を経過したことになる。

「いま手がけている仕事は?」
「婦人教育が中心です。婦人の学習グループを自主運営、自主活動させる素晴らしさを実感で体得できました。」



「婦人の学習グループが自立し、よもぎの会」と命名したので、そして、郷土の伝統行事の中に生きてきた郷土料理を、自分たちで調べあげ、冊子にまとめたのです。むろん、原稿書きから編集、校正、ワープロうちまで自主活動でした。「私はお手伝いをしただけなのに」と充実感でいっぱい顔を話してくれました。

(高橋氏は四月一日付けで市民生活課へ栄転の由。上村記)

実践「上越の社会教育」記録集

上越教育事務所

県教育庁上越教育事務所から、「上越の社会教育」が贈られてきた。管内市町村から提出された手刷りの実践記録を集録したものである。

冒頭には、県行政の立場から管内の「社会教育行政の現状と課題」が分析され、続いて、市町村の「社会教育事業・活動の実践」が掲載されている。

管内22市町村のどの記録を読んでも、さし迫った市町村の生活課題をとらえての苦心と努力の実践記録で、胸のあつくなる思いがする。

なかでも、編集子の立場から公民館に直接かかわりを持ち、しかも、「生涯学習の地域化」に視点が当たっている事業に関心を向ける。安塚町の生涯教育に位置づけられた「ふるさとカルタ」の作成に示されている地域への愛情と気配り。吉川町の手書き

上越の社会教育

新潟県教育庁上越教育事務所

ど、ユニークな点が目につく。紙面の都合で、プログラムの紹介ができないのが惜しい。(上村記)

「生涯学習」意識調査

加茂市教育委員会

加茂市教育委員会から、生涯学習に関する意識調査の結果報告書が贈られてきた。

近年、県下の市町村にあって、生涯学習に取り組むための基礎



報告書によると、この種の調査ははじめてとしながらも、十八歳から七十九歳までの市民の五%を無作為抽出法で調査し、九〇、八%（、一二九人）の高回収率を得ていることから、信びよう性も極めて高いものと思われる。

あとがき

◇四月は新しい年度の始まる月です。それぞれの公民館では、事業への取り組みに意欲をもやしていることでしょう。

今年もまた気分を新たに、県下の公民館関係者が手をつなぎ課題解決に努めましょ

う。

◇当編集部では、より一層役に立つ「月報」づくりに努力します。埋もれている情報の掘り起こしに協力してください。(上村)

佐々木

実 著

公民館運営一問一答集

A五判二八八頁 頒価一、九〇〇円(送料三〇〇円)

全国公民館連合会著

公民館のあるべき姿と今日的指標

A五判三四〇頁 頒価二、五〇〇円(送料三〇〇円)

全国公民館連合会著

全公連35年史

A五判二八八頁 頒価一、五〇〇円(送料三〇〇円)

徳間 助 夫 著

公民館日記

四六判三〇〇頁 頒価一、八〇〇円(送料二五〇円)

朱膳寺 春 三 著

公民館の原点

四六判三〇八頁 頒価一、二〇〇円(送料二五〇円)

新任の公民館職員のみなさんにおすすめる一冊。いずれも、本会事務局で取扱っています。購入のむきは、電話で一報ください。

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 志 水 亘

編集人 事務局長 上 村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】